



授業づくり講座 in 東洋町立甲浦小学校

第5学年「小数の倍」 第6学年「分数の倍」

かんのうら



教材研究会 5月28日

授業者 本藤 弘騎 教諭

複式・算数科

- 見方・考え方を軸にした単元づくり
～学習指導要領の趣旨理解～
- 授業力の向上
～教材分析と授業省察～
- 参加者の主体的・対話的で深い学びにつながる講座の充実

授業者から

- ・両学年で学習内容(題材)をそろえることで、5年生は先を見通すことができ、6年生はこれまでの学習を振り返ることができると考えている。
- ・問題文に問題を解くために必要でない数値を入れ、どの情報が必要なのか判断することができる力を養いたい。



第5学年		指導計画・評価規準		第6学年		指導計画・評価規準		時数	
時数	評価規準(評価方法)	知・技	思・判・表	知・技	思・判・表	時数	知・技	思・判・表	時数
1	・知② (ノート・行動)								
2	○知② (ノート・行動)					1		・思① (ノート・行動)	
3						2		○知① (ノート・行動)	
4 (本時)								○思① (ノート・行動)	3 (本時)
5	○知① (ノート・行動)							○思① (ノート・行動)	

複式学級の強み(指導内容をそろえる)を生かした単元づくり

理解を深める

比較量、基準量が小数の場合でも、倍を求めるには除法を用いなければならないことを、図や式を用いて考え、説明することができる。

小数倍の意味について、図や式を用いて考え説明し、倍の意味の理解を深める。

倍を表す数が小数の場合も基準量を求めるときは□を用いて乗法の式に表して考えればよいことを、図や式を用いて説明することができる。

倍を表す数が小数の場合も倍を使った比較の仕方を考え、説明することができる。

協議の視点①

【単元について】
・1単位時間毎に動かせる見方・考え方について

グループ協議での意見

- ・「小数(分数)も整数の場合と考え方が同じだ」と子供が気付くように展開(整数倍の時の数直線を用いながら)していくとよいのではないかと。
- ・数直線を用いて2量の関係をつかませながら説明することが大切ではないかと。

協議の視点②

【本時について】
・題材が適切か
・見方・考え方を働かせる工夫(手立て)について

グループ協議での意見

- ・児童が興味をもちやすい題材だと思いが、いかに必然性をもたせるか、問題提示までの過程(児童とのやり取り)を大切に、自ら課題を見いだせるようにしていくことが大切ではないかと。
- ・同一題材、同一場面で行うことは、5年生は先を見通すことができ、6年生には学習を振り返ることができるのでよい。
- ・前時とつながりをもたせながら展開することが大切ではないかと。

研究主任から

研究主任 樋口 桃子 教諭



授業研究会 6月30日

- 見方・考え方を軸にした単元づくり
～学習指導要領の趣旨理解～

【本時の捉えと授業内容について】

- ・小数・分数の乗除法から「倍」を1つの単元として位置付けることで、わり算で解決するのか、かけ算で解決するのかを問題ごとに考えさせたい。
- ・用法によって、乗法を用いる場合と除法を用いる場合があるため、問題を解くために図式化したり、問題から取り出した情報を既習の式に表したりすることで、問題の意味を読み取る力や、問題を解く手立てを筋道立てて考える力を育成する。

単元をつくる際に、本単元を通して働かせる見方・考え方を明確にし、それを1単位時間毎に子供の具体的な姿で描くことで、単元全体の数学的活動についても、より明確に位置付けることができます。

2 授業力の向上～教材分析と授業省察～

研究協議より

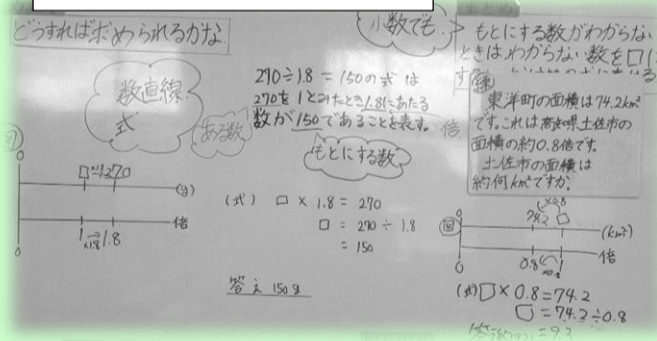
「本時の評価基準を達成できていたか。」

- 第5学年: 小数の乗法及び除法の計算を用いて、日常生活の問題を解決している。(思・判・表)
- 第6学年: 2量の関係に着目し、基準量や比較量が分数の場合の倍の意味について図や式などを用いて考え表現している。(思・判・表)

*第6学年については「主体的に学習に取り組む態度」も設定していたが主に「思・判・表」について協議された。

- ・5年生は、一人学びで活動が止まっている児童がいたので、「整数倍のときと同じではないか」という見通しをもたせてスタートさせるとよかったのではないかと。
- ・6年生は、数直線を用いて解を求めることができていたので、2量の関係に着目し、図と式を関連付けて説明することができたらよかった。
- ・評価規準について、授業者が具体的にイメージすることができていたのか。イメージすることで、達成するために個別支援をどのようにしたらいいのかを考え、適切な支援ができたと思う。

第5学年板書・児童のノート



第6学年板書・児童のノート



子供たちは、前時、前々時の学習を振り返りながら問題解決を行っていました。

参会者より

3 参加者の主体的・対話的で深い学びにつながる講座の充実

～今日の講座の学び～

- 子供たちがこれまでにどのような学びをし、この単元の学びが中学校の学びにどう繋がっていくのかを把握したうえで、授業づくり・単元づくりを行っていきたいです。
- 授業のねらいを明確にし、いかに子供が主体的に学べる授業をつくっていくのか、教材研究を丁寧にしたいです。
～教材研究会後自分の授業で取り入れたこと～
- 児童が主体的に考えられるよう、発問を工夫するようになりました。
- 低学年から図をかき、式と関連させながら自分の言葉で説明させるよう心がけています。
- 本単元で付きたい資質・能力を学習指導要領で確認をし、単元をつくるように意識しています。(今までは、単元をつくるというよりは、1単位時間をつくっていた。)

授業者より

複式授業の難しさと楽しさの両面を再確認しました。常に既習事項と関連させながら、「どんなことを使ったら解決できるのだろうか。」と子供が見通しをもってスタートできるように場面設定を工夫していきたいです。また、児童が自分たちの力で問題解決できたと実感をもつことができるような授業展開にしていきたいです。

check! 子供の思考に寄り添った学びの場をともに作りませんか?

講師 島根県立大学人間文化学部教授 齊藤 一弥氏 来校

次回 第2回教材研究会 令和3年8月24日(火)午後開催 3年「□を使った式」 4年「変わり方調べ」